

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- 2009年12月調査結果 -



2009年12月28日

業況DIは、3カ月振りにマイナス幅拡大

< 結果のポイント >

12月の全産業合計の業況DIは 63.8と、前月に比べ 3.8ポイントと、3カ月振りにマイナス幅が拡大した。業況は、雇用環境が最も厳しかった2009年7月(63.6) 前の景気後退局面の最悪月(2002年2月・ 63.1)と同水準の極めて厳しい状況となってきた。

業種別では、製造業、卸売業がほぼ横ばいで推移した。製造業については、経済対策の効果のほか、広範囲に生産水準の下げ止まり感が出ている。卸売業については、仕入単価の下落傾向が続いている。一方、建設業、小売業、サービス業ではマイナス幅が拡大した。建設業においては、公共工事の前倒し発注に伴う工事量減少、民間工事の停滞が影響した。小売業、サービス業では、年末商戦の不振、忘年会など外食の落ち込み、円高による外国人観光客の減少など大幅な需要不足が影響している。

項目別では、従業員DIについては、 21.2と、調査開始以来の最悪値(2009年4月の 21.9)に再び迫ってきた。売上DI、採算DI、資金繰りDIについては、マイナス幅が拡大した。また、大幅な需要の落ち込みと川下からの値下げ圧力の高まりにより、仕入単価DIについては、マイナス幅が縮小し続けている。

先行きについては、 56.8 (前月比 5.9ポイント)と、4カ月連続でマイナス幅が拡大した。先行きの悪化はすべての業種に及んだ。デフレによる販売価格の低下、雇用・所得不安に伴う個人消費・住宅建設の減退、公共工事の減少懸念、円高の影響などから、先行きへの不安感は広がっている。「売上回復が期待できず、廃業する企業が多くなっている」との報告も増えており、12月8日に発表された緊急経済対策の早期執行を求める声が強い。2010年の業況見通しについては、「低水準の横ばい状態」という声が過半数を占めた。「二番底を懸念」という声も4割にのぼり、「持ち直す」との声はわずかだった。

----- 調査要領 -----

調査期間 2009年12月14日～18日

調査対象 全国の407商工会議所が2623業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業: 385 製造業: 618 卸売業: 237 小売業: 741 サービス業: 642

調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況及び業界として当面する問題等
DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

業況・採算:(好転) - (悪化) 売上:(増加) - (減少)

【本件照会先】産業政策第一部 TEL:03-3283-7839 E-Mail:Sangyo1@jcci.or.jp
<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

＜ 産業別の特徴的な動き ＞

12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、63.8と、前月に比べると3.8ポイントと、マイナス幅は拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は、製造業、卸売業でほぼ横ばいで推移、建設業、小売業、サービス業の3業種で拡大した。

建設業、卸売業、小売業を中心に、デフレの進行により、販売単価が下がり、採算が悪化している企業は6割近くに及んだが、3割を超える企業は、「仕入価格下落のため、なんとか採算を維持」している。一方、来年夏ごろまで景気の低迷が続いた場合は、「経済対策が打ち出されれば、何とか持ちこたえられる」という企業は4割を超えたが、「廃業を視野に入れざるを得ない」という企業も1割を超えるなど、企業マインドは先行きの見えない不安感が非常に強くなっている。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値(前月比) ↑ 好転 ↓ 悪化

【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	⇔	↓	↓	↑	↓

- ・「公共工事も少なくなり来年も厳しい状況が続く。ボーナスも支給されない事業所が多い」(土木工事業)
- ・「官民ともに工事量が減少しており、経営状況は厳しい。今後、建設業界の廃業・倒産の影響で失業者が50万人に達すると予想している」(建設工事業)
- ・「業界の中では廃業も視野に入れざるを得ない事業所もある」(塗装工事業)

【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	↓	↓	↓

- ・「円高の影響により輸出市場での価格競争が不利になっている」(繊維機械製造業)
- ・「業界を取り巻く環境は依然厳しく、一時帰休を継続している企業もある。年明け以降も安定した受注が見込めない状況」(金属加工機械製造業)
- ・「かなり高い操業をしている企業もあるなど業種により差がある。また、同業他社の廃業により仕事が増えた企業もある」(一般産業機械製造業)

【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	↓	↓	↑	↑	↓

- ・「個人消費停滞、暖冬、デフレによる物価下落や需要低迷などから、追加リストラを検討する必要が出てきた」(各種商品卸売業)
- ・「個人消費は低価格志向にあり、小売の店頭において低価格競争が激化し、製造、卸、小売が共倒れするのではないかと懸念している」(農畜産水産物卸売業)
- ・「もう何番底なのかわからない。デフレ対策等を進めていかなければ、中小企業の経営存続は難しくなる」(衣服・日用品卸売業)

【小売業】

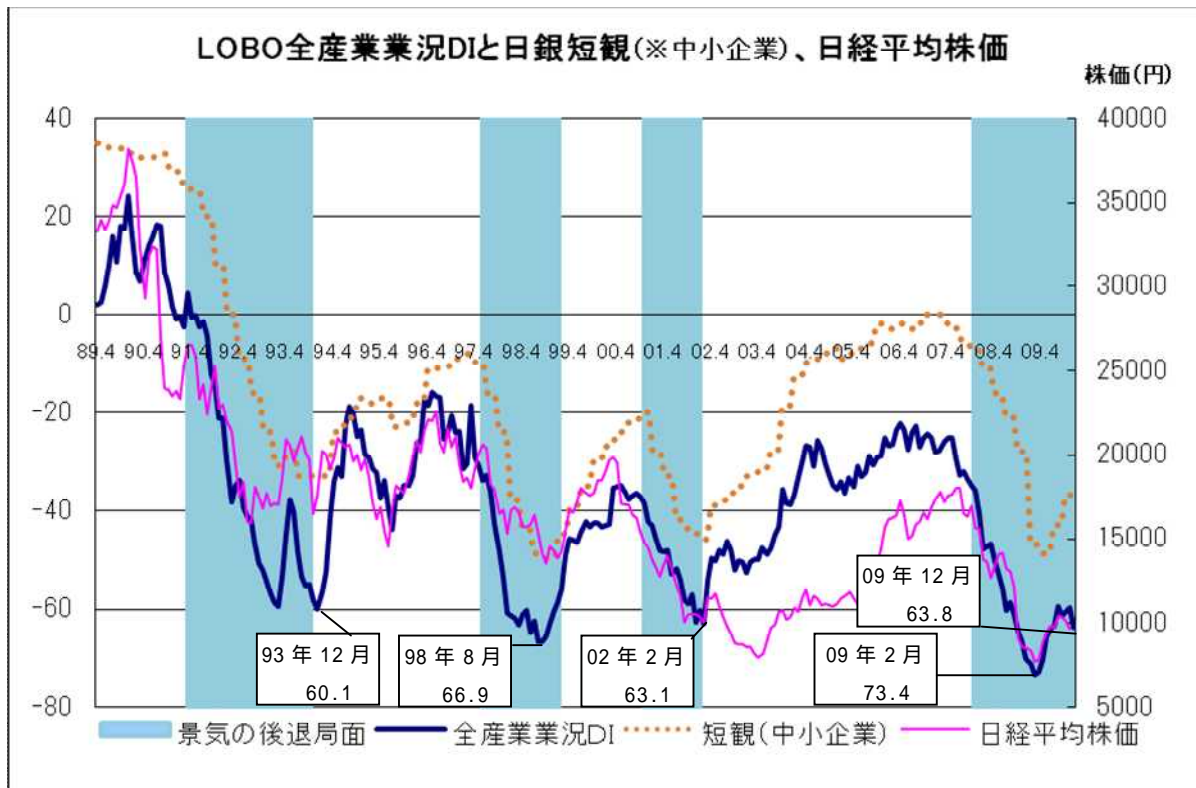
業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	⇔	⇔	↑	↓

- ・「ボーナス商戦期間中である週末の売上が近年例にないほど悪い」(その他小売業)
- ・「価格競争が厳しく値崩れも激しい状況で、利益減少が続いている」(百貨店)
- ・「長年取引していた問屋が廃業し、段々仕入先が少なくなってきている」(商店街)

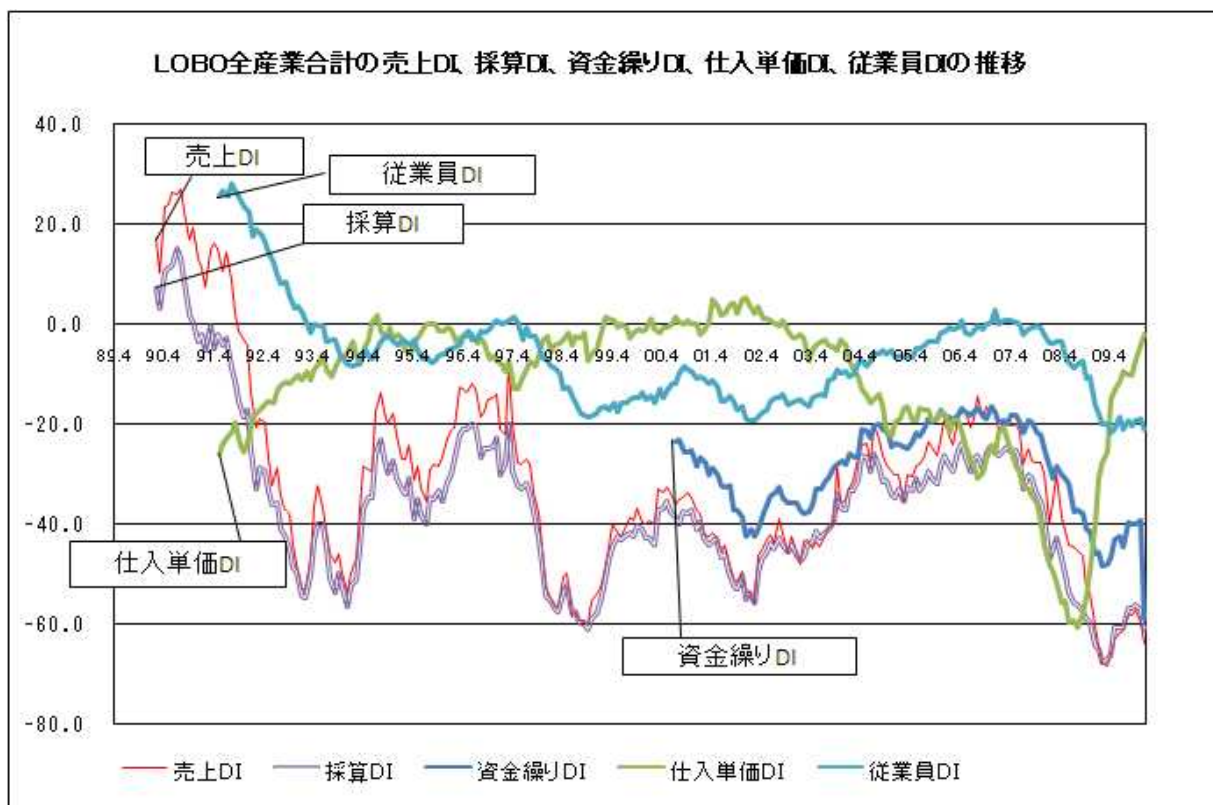
【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	↓	↓	↑	⇔

- ・「消費の低迷に加え、デフレの影響で客単価が下がっている。来年はこれまでで最も厳しい年になると予想している」(食堂・レストラン)
- ・「年末年始の帰省客、観光客も期待できず、企業の忘年会、新年会も少ない。同業者のあいさつは、『景気が悪い』が決まり文句になっている」(他の一般飲食店)
- ・「円高の影響で、外国人観光客が減少している」(旅館)



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、63.8となり、前月に比べると3.8ポイントと、マイナス幅が拡大した。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、製造業、卸売業でほぼ横ばいで推移、建設業、小売業、サービス業の3業種で拡大した。

向こう3カ月（1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が56.8と前月（50.9）と比べ5.9ポイントとなり、4カ月連続でマイナス幅が拡大した。

産業別に先行き見通し（前月比）をみると、すべての業種でマイナス幅が拡大した。特に、卸売業については、北陸信越、東北、近畿、九州を中心に、サービス業は、北海道、近畿、中国を中心にマイナス幅が拡大した。

業況DI(前年同月比)の推移

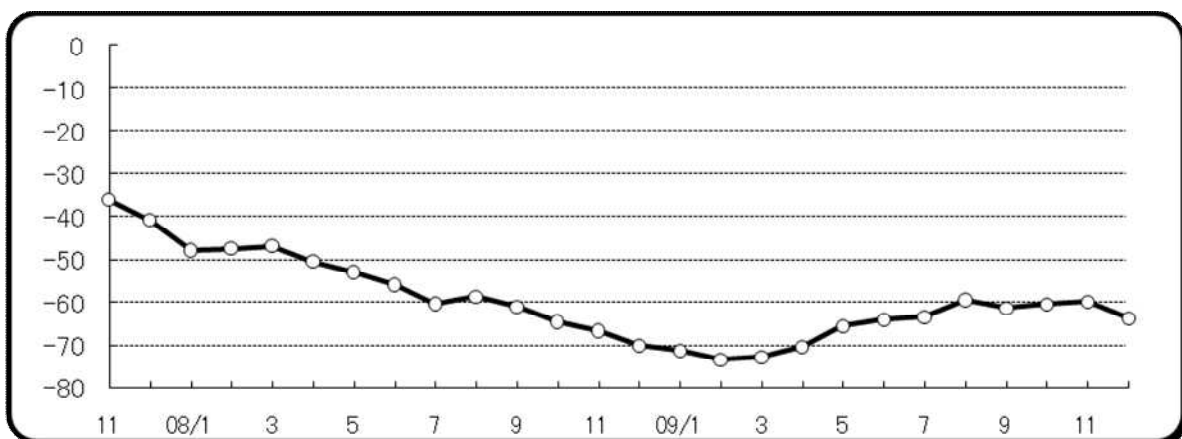
	09年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月～3月
全産業	63.6	59.6	61.4	60.6	60.0	63.8	56.8 (50.9 / 71.6)
建設	61.2	56.3	57.5	64.1	55.5	62.4	59.8 (58.9 / 75.3)
製造	65.7	62.9	67.0	62.4	60.2	59.4	51.7 (43.5 / 73.9)
卸売	65.5	61.1	56.8	65.4	67.7	67.1	53.1 (47.0 / 69.7)
小売	65.1	60.7	64.0	62.9	64.3	71.7	61.0 (56.6 / 69.4)
サービス	60.3	56.3	56.9	51.8	54.8	58.6	56.6 (48.5 / 70.2)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI

()内左側(網かけ)は前月11月の先行き見通しDI

()内右側は昨年12月の先行き見通しDI

(業況DI(全産業・前年同月比)の推移)



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、61.2となり、前月に比べると1.4ポイントと、マイナス幅が拡大した。産業別にみると、建設業、製造業でほぼ横ばいで推移、卸売業、小売業、サービス業の3業種でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月ベース)が54.7と、前月(45.5)に比べ9.2ポイントとなり、マイナス幅が拡大した。特に、近畿、中国を中心にマイナス幅が拡大した。

産業別に先行き見通し(前月比)をみると、製造業、卸売業、小売業、サービス業の4業種でマイナス幅が拡大した。特に、製造業では北海道、近畿、九州を中心に、卸売業では東北、北陸信越、中国、九州を中心に、サービス業では東北、北陸信越、近畿、四国、九州を中心にマイナス幅が拡大した。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

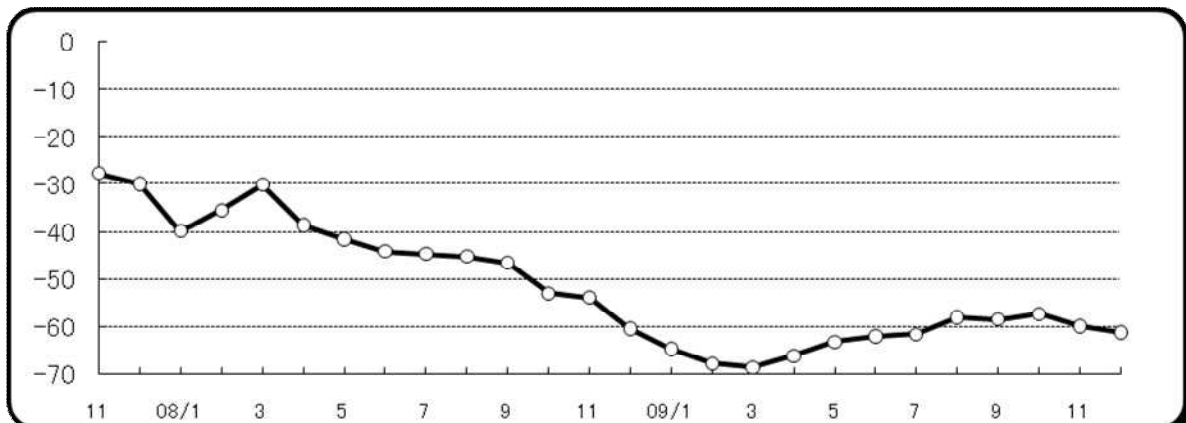
	09年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月～3月
全産業	61.6	57.9	58.4	57.2	59.8	61.2	54.7 (45.5 / 65.7)
建設	54.2	52.0	52.2	52.6	54.5	54.6	58.3 (58.4 / 71.1)
製造	65.0	62.6	66.1	62.0	58.8	59.0	49.3 (40.0 / 64.5)
卸売	60.0	56.9	54.7	61.9	67.2	68.5	51.4 (31.3 / 63.9)
小売	66.7	61.4	60.6	60.7	66.0	68.2	57.7 (52.4 / 62.6)
サービス	57.3	52.7	53.4	49.0	54.2	56.7	55.9 (40.6 / 67.7)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月11月の先行き見通しD I

()内右側は昨年12月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、59.0となり、前月に比べると1.7ポイントと、マイナス幅が拡大した。産業別にみると、製造業、小売業でほぼ横ばいで推移、建設業、卸売業、サービス業の3業種でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月ベース)が53.2と、前月(46.1)と比べ7.1ポイントとなり、マイナス幅が拡大した。特に、中国、九州を中心にマイナス幅が拡大した。

産業別に先行き見通し(前月比)をみると、すべての業種でマイナス幅が拡大した。特に、卸売業では北海道、東北、北陸信越、近畿、中国、四国を中心に、サービス業では北陸信越、東海、中国、九州を中心にマイナス幅が拡大した。

採算D I (前年同月比) の推移

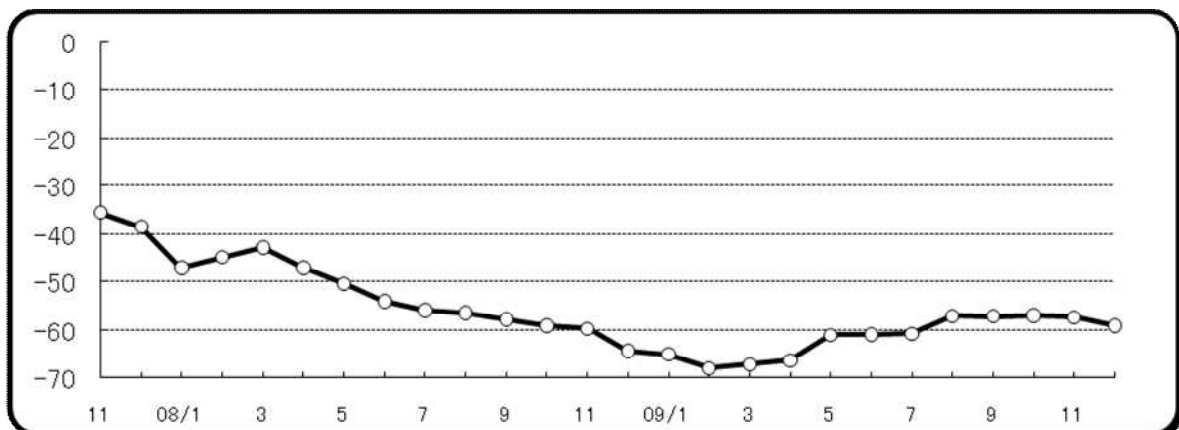
	09年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月～3月
全産業	60.8	57.0	57.1	56.4	57.3	59.0	53.2 (46.1 / 65.6)
建設	61.1	56.8	58.1	55.9	54.5	58.1	59.4 (54.5 / 69.7)
製造	65.8	61.8	65.4	57.0	57.0	56.9	47.8 (43.6 / 67.5)
卸売	56.4	54.2	50.0	60.4	59.7	62.2	50.0 (32.8 / 63.9)
小売	62.0	57.7	57.3	60.3	62.4	61.7	56.3 (50.3 / 61.0)
サービス	55.9	52.4	50.3	50.0	52.4	57.2	52.7 (43.9 / 67.1)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月11月の先行き見通しD I

()内右側は昨年12月の先行き見通しD I

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	09年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月
全産業	44.7	39.9	40.1	40.2	39.3	41.8	39.6 (35.5 / 48.6)
建設	47.9	43.6	47.5	50.5	46.0	49.8	47.7 (46.2 / 55.3)
製造	53.3	48.7	48.3	47.8	44.1	48.7	41.3 (37.8 / 55.9)
卸売	38.2	38.0	35.0	35.0	34.1	32.6	36.6 (28.8 / 46.7)
小売	38.0	35.9	35.4	35.1	36.3	37.0	32.8 (30.7 / 37.6)
サービス	43.5	33.4	34.2	33.9	35.4	38.2	41.1 (34.4 / 49.7)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、41.8となりマイナス幅は拡大した。産業別にみると、小売業でほぼ横ばいで推移、建設業、製造業、サービス業の3業種でマイナス幅が拡大した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通し(前月比)をみると、マイナス幅は拡大する見通し。産業別にみると、すべての業種でマイナス幅が拡大する見通し。特に、卸売業では北海道、北陸信越、中国を中心にマイナス幅が拡大した。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	09年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月
全産業	9.5	10.5	10.3	7.6	4.4	2.3	6.4 (7.7 / 27.2)
建設	15.9	16.8	15.5	18.1	14.1	10.6	11.9 (15.0 / 27.9)
製造	9.1	6.1	8.4	7.6	2.4	5.8	13.0 (10.5 / 21.9)
卸売	3.6	1.4	2.0	5.3	12.7	14.0	1.4 (1.5 / 20.8)
小売	7.6	6.9	6.5	2.0	1.9	5.0	1.3 (2.1 / 27.9)
サービス	13.1	19.4	17.3	12.9	10.2	8.5	7.9 (10.5 / 33.9)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは2.3となり、上昇感は弱まっている。大幅な需要不足により、鋼材や食材等が下落している。産業別にみると、卸売業、小売業で下落感が出てきているほか、建設業、サービス業で上昇感が弱まっている。製造業では上昇感が強まっているが、化学製品等の値上げが影響しているとみられる。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通し(前月比)をみると、マイナス幅は縮小する見通し。産業別にみると、卸売業はほぼ横ばいで推移、建設業、小売業、サービス業でマイナス幅が縮小する見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	09年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月～3月
全産業	21.1	19.4	20.5	19.3	19.2	21.2	19.3 (15.4 / 20.3)
建設	37.4	25.4	31.7	30.4	27.4	30.3	28.5 (28.8 / 35.2)
製造	32.3	29.2	30.6	31.4	29.6	31.4	26.2 (21.2 / 28.8)
卸売	21.7	19.4	25.3	22.7	18.8	25.2	26.1 (15.7 / 19.4)
小売	10.5	13.3	13.3	10.7	13.2	14.4	13.5 (10.3 / 10.2)
サービス	11.0	12.3	8.8	8.4	10.6	10.9	9.8 (6.7 / 14.0)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは、21.2とマイナス幅が拡大し調査開始以来の最悪値21.9（2009年4月）に再び迫ってきた。産業別にみると、サービス業がほぼ横ばいで推移、他の4業種で過剰感が強まった。特に、卸売業では東北、中国、四国、九州を中心にマイナス幅が拡大した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通し（前月比）をみると、マイナス幅は拡大する見通し。産業別にみると、建設業がほぼ横ばいで推移、他の4業種でマイナス幅は拡大する見通し。特に、卸売業では東北、東海、中国、四国、九州を中心にマイナス幅が拡大した。

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側（網かけ）は前月11月の先行き見通しD I

()内右側は昨年12月の先行き見通しD I

【2009年12月の景気キーワード】

膨らむ先行き不安

年明け以降の仕事量の減少や所得・雇用情勢の悪化など、先行きに対する不安について訴える声が多く寄せられた。

- ・「工事量の減少が予想され、先行きが見えない」(長岡・一般工事業)
- ・「同業大手の民事再生法など、繊維を取り巻く環境は悪化が続いている。今後の連鎖倒産、廃業が危惧される」(一宮・織物製造業)
- ・「景気回復の見通しが立たない。設備投資が増えなければ厳しい」(延岡・建設建築用金属機械製造業)
- ・「返済猶予後の新たな借入ができるかどうか不安で、借換えに踏み切ることができない」(茨木・農畜産水産物卸売業)
- ・「消費者の買控えが厳しく、売上は減少している。景気が回復しなければ従業員の見直し(正規からパートへ)も視野に入れなければならない」(横須賀・商店街)

デフレの進行

販売価格が下がり、採算が悪化している企業が6割近くになるなど、デフレの進行による悪影響を訴える声が多く寄せられた。

- ・「低価格入札が激しさを増し、価格では大手企業には太刀打ちできない。3月までは何とかなるが、その先の見通しが立たない」(静岡・一般工事業)
- ・「小売業者からの値下げ圧力を感じる。価格を下げてでも期待した注文数とはかけ離れている」(上田・調味料製造業)
- ・「卸売業者から『もち米を安くするから買ってくれ』と言われ値下げしてもらった。デフレの影響で仕入価格が下落している」(倉敷・パン・菓子製造業)
- ・「高いものは売れない。売上が減っても、仕入価格も下がっているので採算は維持しているが、この状況が長期化するとじり貧となって厳しい」(御坊・農畜産水産物卸売業)
- ・「デフレの影響で販売価格を下げざるを得ない。仕入れ業者に値下げを依頼」(倉敷・百貨店)

雇用情勢のさらなる悪化

受注、売上の減少など企業の収益状況のさらなる悪化から、雇用の過剰感が増しているという声が寄せられている。

- ・「業況は回復せず厳しい状況で、従業員に過剰感がある」(赤穂・金属加工機械製造業)
- ・「業種により依然減産の動きが見られるなど予断を許さない。操業時間調整は続き、雇用環境に厳しさが広がっている」(新居浜・一般産業用機械製造業)
- ・「雇用や賃金体系の見直しを検討している」(函館・水産食料品製造業)
- ・「来年3月までは、雇用調整助成金による教育訓練を継続実施する予定」(川口・鉄素型材製造業)
- ・「生産調整をしながら、派遣やパート社員などの人員削減を進めている」(静岡・自動車部品・同附属品製造業)
- ・「リストラおよび支店閉鎖する企業が多くなっている」(宇都宮・百貨店)

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年 7月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化
8月	雇用情勢の悪化	経済対策の効果	広がる低価格化
9月	雇用情勢のさらなる悪化	資金繰りの悪化	広がる低価格化
10月	雇用情勢の悪化	資金繰りの悪化	広がる低価格化
11月	雇用情勢の悪化	資金繰りの悪化	膨らむ先行き不安
12月	雇用情勢のさらなる悪化	デフレの進行	膨らむ先行き不安

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、東海を除く、他の7ブロックでマイナス幅が拡大している。

特に、東北、四国では小売業を中心に、北陸信越、中国ではサービス業を中心に、関東では建設業を中心に、近畿、九州では卸売業を中心にマイナス幅が拡大した。一方、北海道では卸売業を中心に、東海では製造業を中心にマイナス幅が縮小した。北海道のマイナス幅の縮小は、業況判断が「悪化」から「不変」に変更したことが主因で、実態は横ばい状態とみられる。

ブロック別の向こう3カ月（1月～3月）の業況の先行き見通しは、前月と比べ、北海道、四国を除く、他の7地域でマイナス幅が拡大した。

特に、東海では建設業、小売業を中心に、中国ではサービス業を中心に、九州では建設業、卸売業を中心にマイナス幅が拡大した。北海道は、建設業を中心に、四国は小売業を中心にマイナス幅が縮小した。マイナス幅の縮小は、業況判断が「悪化」から「不変」に変更したことが主因で、実態は横ばい状態とみられる。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	09年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月～3月
全 国	63.6	59.6	61.4	60.6	60.0	63.8	56.8 (50.9 / 71.6)
北 海 道	50.6	52.3	60.8	53.4	58.1	48.9	41.4 (41.9 / 72.6)
東 北	65.9	56.7	62.9	51.9	54.5	60.0	60.6 (55.8 / 81.0)
北陸信越	69.0	66.7	63.2	57.3	64.2	68.7	63.9 (57.0 / 72.1)
関 東	63.8	56.5	60.0	62.2	61.1	62.8	55.0 (51.0 / 72.2)
東 海	67.2	62.1	67.1	73.9	65.9	62.8	52.9 (42.1 / 71.8)
近 畿	67.8	62.0	67.4	67.3	59.6	65.1	57.3 (51.9 / 68.3)
中 国	69.3	71.3	67.2	69.4	71.3	77.7	62.5 (49.5 / 71.8)
四 国	50.4	50.4	47.2	45.7	50.8	54.5	45.5 (47.5 / 67.3)
九 州	61.1	59.0	56.5	58.9	53.9	67.9	66.5 (55.3 / 67.7)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側（網かけ）は前月11月の先行き見通しD I

()内右側は昨年12月の先行き見通しD I

【ブロック別・特徴的なコメント】

産 業	概 況
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・「年度いっぱい仕事を確保しているが、その後はまったく見通しが立たない」(農業用機械製造業) ・「エコポイント制度の効果により薄型テレビの売上好調」(商店街) ・「1～2月に大口の予約があるが、ピーク時の1/2の予約状況」(旅館)
東北	<ul style="list-style-type: none"> ・「低価格商品のみが売れる状況で、海外製品との競争も激化し、一段と厳しい状況になる」(織物外衣製造業) ・「11月までは観光客の増加により売上も増えた。12月に入り一気に停滞し売上は減少している」(商店街)
北陸信越	<ul style="list-style-type: none"> ・「公共工事の減少に加え、民間工事も減少し、業況は悪化の一途」(一般工事業) ・「受注単価が低下し、納期も短い仕事が多い」(鉄素形材製造業) ・「忘年会の販促を前倒しして行ったが大口の予約はなかった」(食堂・レストラン) ・「円高の影響で、外国人観光客が減少している」(旅館)
関東	<ul style="list-style-type: none"> ・「民間工事は、住宅建設が個人消費の落ち込みにより1物件当たりの価格が下がっている。値下げ競争は大手メーカーが有利で、地元工務店では太刀打ちできない」(一般工事業) ・「景気が回復しなければ、雇用の見直しも視野に入れなければならないが、専門的な知識を求められる業者もあり苦慮している」(商店街)
東海	<ul style="list-style-type: none"> ・「操業50%の企業が4割、それ以上が6割と、少しずつ良い兆しが出始めている。自動車関連企業は徐々に上向いている」(鉄素形材製造業) ・「円高還元セールを実施しているが、仕入価格は変わらないため、採算が悪化している」(商店街) ・「業況は悪化し今後、廃業が増加すると予想している。個人では打つ手がない」(食堂・レストラン)
近畿	<ul style="list-style-type: none"> ・「返済猶予利用後の新規借入れができるかどうか不安で、借換えに踏み切れない」(農畜産物卸売業) ・「食料品は他店との競争が厳しい。一方、薄型テレビ、ギフト、冬物衣料が好調で、クリスマスや年末年始での売上増を期待」(百貨店) ・「値打ち感のある料金設定をしないと集客が難しい。平城遷都1300年祭、連続ドラマの効果等による観光客の増加に期待している」(旅館)
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・「公共工事に大きく依存しており、予算措置から受注までの半年～1年半と期間が長く、予算削減の影響が出るまでもう少し時間がかかりそうだ」(一般工事業) ・「廃業は大げさだが、業態変更による赤字部門の整理を検討している」(商店街) ・「年間の売上について、組合員50名に聞き取り調査を行ったところ、『開業以来最悪の一年だった』という回答が最も多かった」(理容業)
四国	<ul style="list-style-type: none"> ・「業種により依然減産の動きが見られるなど予断を許さない。操業時間調整は続き、雇用環境に厳しさが広がっている」(一般産業用機械製造業) ・「政府のデフレ宣言以降、消費が伸び悩んでいる。12月に入り、客数や売上の落ち込みが顕著となっている」(その他の小売業)
九州	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人消費停滞、暖冬、デフレによる物価下落や需要低迷などから、追加リストラを検討する必要が出てきた」(各種商品卸売業) ・「デフレの影響と競争激化により衣料品を中心に客単価が下落している」(百貨店) ・「新型インフルエンザの影響で延期された修学旅行が戻ってきたところもある」(旅館)